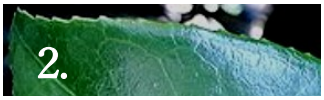
ツバキの葉の彩色　　小池昇司

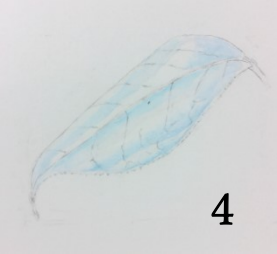
1. 準備する画材

・極細面相筆：極細葉脈描画用
・点描筆（spotter brush No.2）：葉表面のドライブラシ用
・平筆：葉脈の色抜き（リフティング）用
・透明水彩絵具の例：緑色の下色：Cerulean blue、Cobalt Blue など
緑色の1層目の色：Prussian Blue/Indigo/indanthrene blue ＋ transparent yellow
濃い緑色：Payne's gray ＋ transparent yellow または Hansa yellow

2.【観察】 葉は厚く、表面にはワックス状の光沢がある。
光源方向を常に意識し、ハイライト（光沢）と陰のできる部分を注意深く確認する。

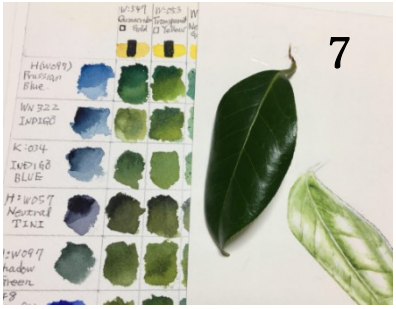


3.【鋸歯の上の微小な光沢】 葉の端（edge）と葉の先端の光沢部には微小なハイライトを確保する。



4.【葉の表面の下塗り】丸筆で、陰からスタートしてハイライト領域に向かって Cerulean blue を薄く塗る。
ブラシを濡らしすぎないこと。この段階で青の筆跡が見えても大丈夫。絵具を完全に乾かしましょう。

5.【緑色の1層目の彩色】 混色して中間色を作る。その色でドライブラッシング風ハッチング塗を行う。
細いスポッターブラシ（No.2）を使いドライブラシで短い線を並べてハッチング（色を重ねずに置いていく）。
葉表面全体を覆うつもりで細かくハッチングしてください。 暗い影の部分には、同じ色を何度か重ねる。
ツヤ・光沢のあるハイライト領域を残すように気を付けて下さい。
拡大鏡を使い自分の作業をチェックし、ハッチングの筆跡がほとんど見えず滑らかであることを確認する。



6.【側脈の絵具を取り去る（平筆で吸い上げる）】 平筆を濡らし、指先でつまんで余分な水を絞り出しつつ先端を細くする。平筆の先端を側脈に沿って置き、絵具が筆の先に移動するまで筆を動かさないように待つ。
次に、筆端を主脈に沿って秒速1mm で動かして色を吸い上げる。 二次側脈についても同様に細筆の先端でリフティングする。 溶け出した絵具は紙の表面から簡単に浮き上がってくる。テッシュペーパーで吸い取る。

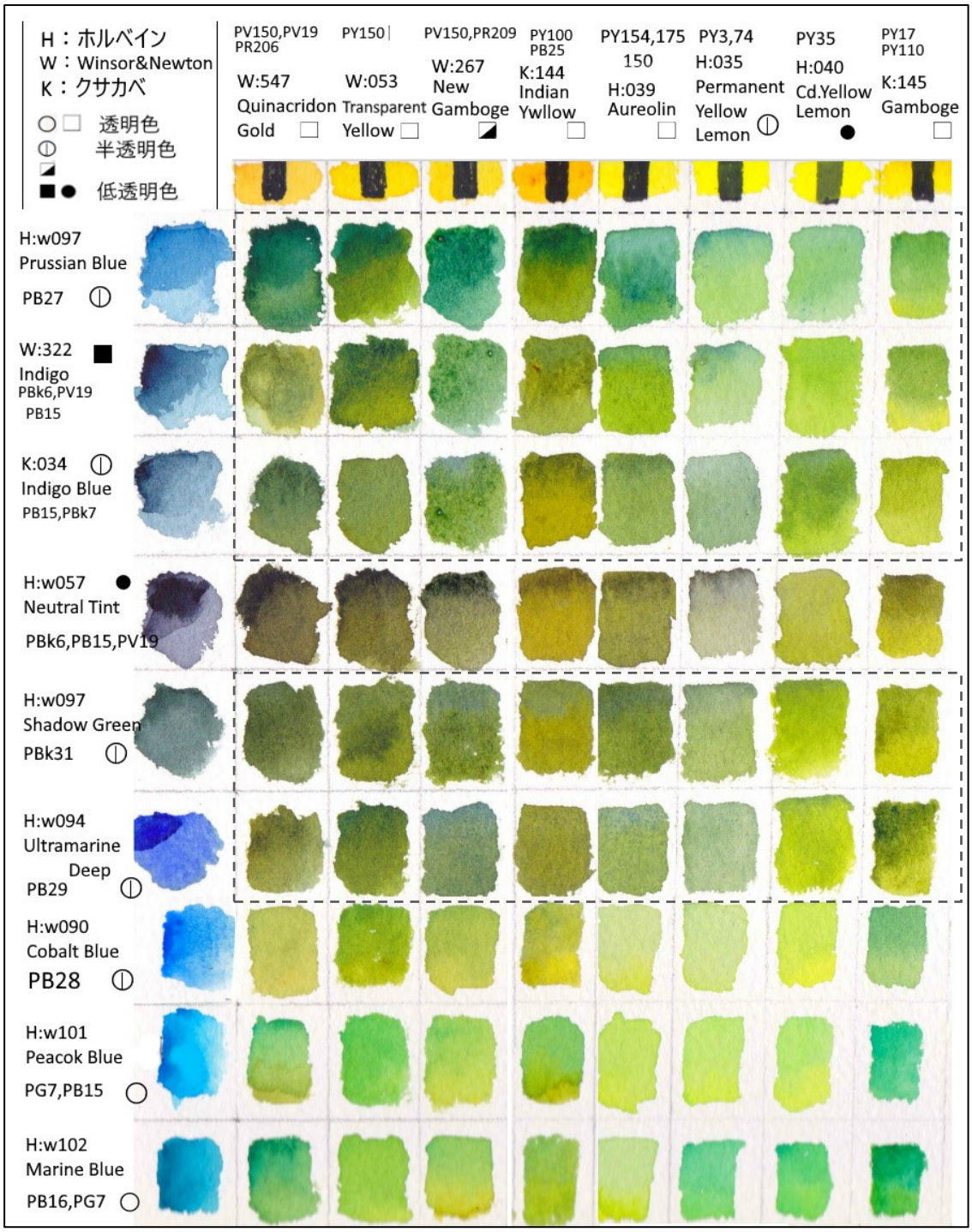
7.【濃い緑色】 ドライブラシにより、細部の彩色に取り組み、塗り重ねて徐々に濃い色調にしていく。 葉を混色表に近づけて混色表を参考にして色を作り、緑のバリエーションを豊かにする。

8.【細い葉脈】葉脈の太さを徐々に狭めながら陰を追加して細くする。 このモチーフの葉の場合、表面は比較的平らなので、葉脈の間がデコボコしないように彩色に注意する。

9.【鋸歯】葉の edge の細部決定線がキレイであることを確認してから、鋸歯に陰を付けて葉の厚みを出す。 最も暗い陰の部分を更に暗くする。

10.【緑色の混色表】

葉を混色表に近づけて色を探って下さい。



Color Index：

顔料(P)＋色相(B や V)＋番号(登録順）で表記。

顔料(P)

・天然原料(N)

・絵具では主に P

色相

赤(R)橙(O)

黄(Y)緑(G)

青(B)紫(V)

褐(Br)白(W)

黒(Bk)金属(M)

表示例

PB : Pigment Blue

PY : Pigment Yellow

PBk : Pigment Black

PV : Pigment Violet

PG : Pigment Green

PR : Pigment Red